

中高生の居場所の充実と世代を超えた交流ができる環境づくり

取組の背景・目的

調布市内では、小学生の人口が増加しているが、国領地域では乳幼児から小学生の人口が減少し始めており、中学生世代がピークとなっている。市内の他地域に先駆けて、「中高生の居場所の充実」が求められている。

このことから、小学生も中高生も「いつ来ても過ごしやすい居場所を作る」ことを目的とし、「小学生との居場所の共有」についても合わせて検討した。今年度、国領児童館は、調布市から調布市社会福祉事業団へ運営委託されたため、そのタイミングで各部屋の運用等を変更し、中高生の居場所の拡充と世代を超えた交流ができる環境づくりに取り組んだ。

取組の概要

■遊戯室

- ・実施頻度：小中高生の利用中は随時
- ・職員体制：当日勤務する全職員
- ・実施方法：中高生が主に利用する遊戯室（運動できる部屋）は、昨年度までは中高生と小学生が時間で交代して使用していた。



スペースが空いている場合も多くあったため、時間交代制を廃止した。

■学習室（多目的利用）

- ・実施頻度：小中高生の利用中は随時
- ・職員体制：当日勤務する全職員
- ・実施方法：事務室で貸し出していたおもちゃを、すべて学習室に移動し配置した。

■工作室（多目的利用）

- ・実施頻度：小中高生の利用中は随時
- ・職員体制：当日勤務する全職員
- ・実施方法：室内を整理し、パーティションや机等の配置換えをした。



子どもたちだけでも安全に入室できるよう物品の整理をした。

■児童館全体

- ・実施頻度：小中高生の利用中は随時
- ・職員体制：当日勤務する全職員
- ・実施方法：部屋や場所別に担当職員を配置。子どもから職員が見える場所にいるようにし、ひとりごとや遊びの仲介ができる状態を作る。注意書きやルールの貼り紙などの掲示物を減らし、視覚的にわかりやすいようなラベリングをして物を配置した。

工夫点・留意点

■遊戯室

- ・運動中の事故を防ぐため、室内遊びの種類を大まかに分ける。
- ・同じ遊びをしたい子どもたちに職員から声をかけ、学年を超えた交流ができるように促す。

■学習室

- ・おもちゃ棚にもゲーム本体の写真を貼り、探しやすく片づけやすいようにした。
- ・壁面に全ゲームを時間別・対戦人数別に表示し、自分たちの集団に合わせて選びやすくした。



■工作室

- ・イベントの実施以外の時間は、静かに使える部屋として案内し、学習にも利用できるようにした。

取組の効果

■遊戯室

- ・「時間が来たのにどいてくれない」「ボールを貸してくれない」などの訴えが聞かれなくなった。困ることがあった場合も職員の仲介により、子どもたち同士で話し合って使用することで、双方納得の上で遊べるようになった。
- ・世代を超えて遊ぶきっかけができ、中学生が小学生と遊んでくれるような場面が多く見られるようになった。遊戯室以外でも一緒に遊んだり会話する場面が見られるようになった。

■学習室

- ・事務室まで行って「ゲームを貸してください」と声をかけるハードルがなくなった気軽さで、初来館であっても緊張せず遊べ、2度目の来館や新規利用の友だちを誘っての来館につながっている。職員も「出ているものは使っていいよ。困ったときは言ってね」と伝えるだけでよいので説明忘れなどなく済んでいる。
- ・事務室内に入室せずおもちゃを選べるようになったことで、貸し出しのために事務室にいた職員も子どもたちと過ごせるようになった。

■工作室

- ・「今日はあのグループと離れて過ごしたい」といった、中学生特有の感情にも応えられるスペースができた。
- ・「自習スペースもあるよ」と呼びかけられるようになったことで、自習目的の来館者も現れ、学習支援ボランティアを招くきっかけを作ることができた。

課題・今後の展開

企画するイベントは小学生以下を対象とするものがほとんどになってしまっているため、中高生向けのイベントができておらず、現在は自由遊びが中心になっている。17時から18時までの中高生タイムや土曜日の午後などの利用しやすい時間に、中高生向けのイベントを企画していきたい。遊びも学習も含めた中高生の様々な要望に応えられるよう、さらに中高生の声を聞き取れる関係性を構築していく。児童館が遊び場や居場所にとどまらず、中高生の活躍の場になるよう支援していきたい。